

みゆきさんへ

大橋 愛（新潟県）

「ここでもいいんですか？」

夏休み目のあの日、小さな男の子を抱っこして、少し遅れてあなたは部屋に入ってきた。メイクの下の頬が赤らんでいたのは緊張じゃなくて、急いで来たせいだね。この場所はすぐにわかった？暑い中、よく来てくれたね、避難親子のひろばに。

会ったのはあの日が初めて。私たちファミリーズ・ネットが、震災後すぐに上越の避難所に出張ひろばに行った時も、3・11の想いを語る場でも、あなたに会ったことはなかった。

・・・今までどうしてたの？小さい

子どもと二人きりになると泣いてばかりいたこと、帰宅した夫に八つ当たりして、申し訳なく思っていること。その途端、涙がぼろぼろこぼれたね。あの場にいたみんなも涙をぬぐっていた。私は、あなたをつらさを想って胸が痛くなった。でも安心もしたんだよ。だって、たまたま避難した見知らぬ街で、あなたには涙をこぼせる場所ができたんだから。

しばらくしてこどもセンターに遊びに来たあなたは、すっぴんでここにこして

子連れで出かける場所はあった？ここは太平洋側と海の位置が反対だから、方角がわからなくなるでしょ？ママ友はできた？パパの帰りは遅いの？・・・

危うく質問攻めにするところだった。抱いてる子どもを降ろして、お茶を飲んで一息ついてもらうのが先だったね。

震災からこれまでの日々を、少しはにかみながら話してくれたね。原発に近い街から、とにかく、とりあえず、バスに乗った。重たいお腹と不安を抱えて。

・・・赤ちゃんが生まれてから、大変だったでしょう？今年の冬は特に雪が多かったから。え？車の免許持ってなかったの！それじゃあ、身動きが取れなかったね。家にこもっていたんだね・・・

聞けばまだ十代。がんばってるね。よくやってるよ。あなたは照れてうなずいていたけど、取材の記者が部屋を出たのをきっかけに、自分のことを話し始めた。

いたね。子どもと一緒にに行ける美容院は？と聞かれて、地図を書きながら説明した。家から離れてるしちよっと無理かなあと付け加えたら、免許も取って車にも慣れたし、少しぐらい遠くても大丈夫、とあなたは言った。

育つのは子どもばかりじゃない。あなたにあらためて教えられた。大変な思いもきつとするだろうけど、そうしたら顔を見せにきてね。また話を聞かせてね。ここにひろばがあるからね。

